

EST普及推進フォーラム実施概要

EST(Environmentally Sustainable Transport:環境的に持続可能な交通)の普及促進を図るため、講演、パネルディスカッション、テーマ別ラウンドテーブル等によりESTの取組みについて検討する「EST 普及推進フォーラム」を開催した。

本フォーラムでは、関係省庁、交通事業者及び内外の学識経験者等による環境的に持続可能な交通に向けた講演・意見交換等をおこなった。また、平成17年度に開催された「ESTスタート・セッション」に引き続き、ESTモデル事業(別添参考)の取組みから得た知見を一般に広めるべく、ポスターセッション等による情報提供もあわせておこなった。当日の参加者は、地方自治体や交通事業者を中心に291名が参加した。当日のパネルディスカッションの様子は、平成19年4月15日(日)18:00からNHK教育「日曜フォーラム」にて放送する予定。

日時:平成19年2月14日(水) 13:00~19:00
 会場:六本木アカデミーヒルズ49 タワーホール、カンファレンスルーム3, 4, 5
 主催:環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会
 後援:国土交通省、環境省、警察庁、
 社団法人民間鉄道協会、社団法人日本自動車工業会、社団法人日本バス協会
 事務局:交通エコロジー・モビリティ財団



「EST普及推進フォーラム」開催ご案内

EST(Environmentally Sustainable Transport:環境的に持続可能な交通)の普及促進を図るため、講演、パネルディスカッション、テーマ別ラウンドテーブル等によりESTの取組みについて検討する「EST普及推進フォーラム」を開催します。

本フォーラムでは、関係省庁、交通事業者及び内外の学識経験者等による環境的に持続可能な交通に向けた講演・意見交換をおこないます。また、平成17年度に開催された「ESTスタート・セッション」に引き続き、ESTモデル事業における取組みから得た知見を一般に広めるべく、ポスターセッション等による情報提供もあわせて行う予定です。

日時:平成19年2月14日(水) 13:00~19:00
 (12:30受付開始)

会場:六本木アカデミーヒルズ49 タワーホール、
 カンファレンスルーム3, 4, 5
 〒106-4149 東京都港区六本木4-19-1 六本木ヒルズ森タワー4階
 TEL:03-6406-6220(代)

主催:環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会
 後援:国土交通省、環境省、警察庁、
 社団法人民間鉄道協会、社団法人日本自動車工業会、
 社団法人日本バス協会、
 交通エコロジー・モビリティ財団

環境的に持続可能な交通
 Environmentally Sustainable Transport



←開催風景

広報チラシ→

第1部 開会挨拶・基調講演・特別講演

国土交通省、環境省から開会挨拶のあと、まず、EST普及推進委員会の委員長である東洋大学太田教授からESTの意義と最近の内外の取組みについてご講演いただいた。続いて、本フォーラムの開催にあたり、英国よりデービッド・カーター氏を招聘しており、カーター氏より都市における自動車交通適正化の試みとして、英国ノッティンガム市の事例を中心にご講演いただいた。

○開会挨拶

国土交通省総合政策局次長 福本 秀爾
 環境省水・大気環境局自動車環境対策課長 金丸 康夫

○基調講演「ESTの意義と最近の内外の取組み」

太田 勝敏 東洋大学国際地域学部教授

○特別講演「都市における自動車交通適正化の試みー英国ノッティンガム市の取組み」

デービッド・カーター MVAコンサルタンシー プロジェクト・ディレクター



第2部 パネルディスカッション「ESTの取組み状況と今後目指すべき展開について」

司会：町永 俊雄 NHKアナウンサー

パネリスト：太田 勝敏 東洋大学国際地域学部教授
高森 長仁 富山市都市整備部交通政策課主幹
デービット・カーター MVAコンサルタンシー プロジェクト・ディレクター
福本 秀爾 国土交通省総合政策局次長
星野 知子 女優

【概要】

2006年4月、運行を開始した富山市の新しい路面電車「富山ライトレール」が21世紀の交通や街づくりを考える行政担当者や研究者から注目を集めている。

それは、自動車からの転換やパーク&ライド・・・など、温室効果ガス発生抑制からなる21世紀の交通体系やコンパクトシティモデルになる可能性があるからだ。

環境省が発表した2005年度の温室効果ガス排出量(速報値)では、産業部門について運輸部門が第2位257百万t(基準年比+18.1%)。とりわけ貨物からの排出が減少する中、旅客運輸の排出量(+39.7%)、自家用乗用車の排出量(+48%)と大幅な増加が目立っている。しかも、都市部で5km未満の乗用車移動は、全体の42%と高い利用率である。

21世紀の交通体系を考えるうえで、近距離移動における自動車から公共交通機関、自転車、歩行への転換が求められている。

本パネルディスカッションでは、識者や交通政策関係者が国内外の先進事例の映像レポートを基に、これからの交通体系やまちづくりを話し合い、21世紀の「環境に・人にやさしい交通」への課題・展望を考えた。



第3部 テーマ別ラウンドテーブル

「地球温暖化防止に向けた自動車交通社会のあり方について」
～ 国民と連携したエコドライブなどの必要性 ～

司会 石田 東生 筑波大学大学院システム情報工学研究科教授

○テーブルメンバー

荒平 信行 福山市建設局都市部都市交通課技師(H17年度選定)
井上 隆司 国土交通省道路局地方道・環境課道路環境調査室課長補佐
大野 栄嗣 社団法人日本自動車工業会拡大地球環境部会副部会長
小長谷 淳 静岡市役所都市局都市計画部交通政策課長(H18年度選定)
佐藤 克文 国土交通省自動車交通局技術安全部環境課課長補佐
堂前 康 警察庁交通局交通規制課課長補佐

「地方都市においてEST対応型公共交通体系をいかにつくりあげるか」

司会 加藤 博和 名古屋大学大学院環境学研究科助教授

○テーブルメンバー

黒瀬 比呂志 広島市道路交通局都市交通部主任技師(H17年度選定)
澤井 俊 国土交通省鉄道局総務課鉄道企画室課長補佐
高木 博 松江市長室政策企画課主幹(H18年度選定)
高橋 弘之 遠州鉄道株式会社運輸事業部長(バス事業者)
平石 浩之 株式会社日本能率協会総合研究所社会環境研究本部主任研究員
松浦 利之 国土交通省都市・地域整備局都市計画課都市交通調査室課長補佐

「利用者に対する意識啓発の取組みについて」

司会 山本 俊行 名古屋大学大学院工学研究科助教授

○テーブルメンバー

上岡 直見 環境自治体会議環境政策研究所主任研究員
谷口 綾子 筑波大学大学院システム情報工学研究科講師
筒井 康訓 和泉市土木下水道部道路河川課交通係長
波多野 肇 社団法人日本民営鉄道協会常務理事
浜野 則彦 秦野市都市経済部都市計画課課長
松橋 啓介 国立環境研究所社会環境システム研究領域主任研究員
渡邊 一弘 環境省水・大気環境局自動車環境対策課課長補佐

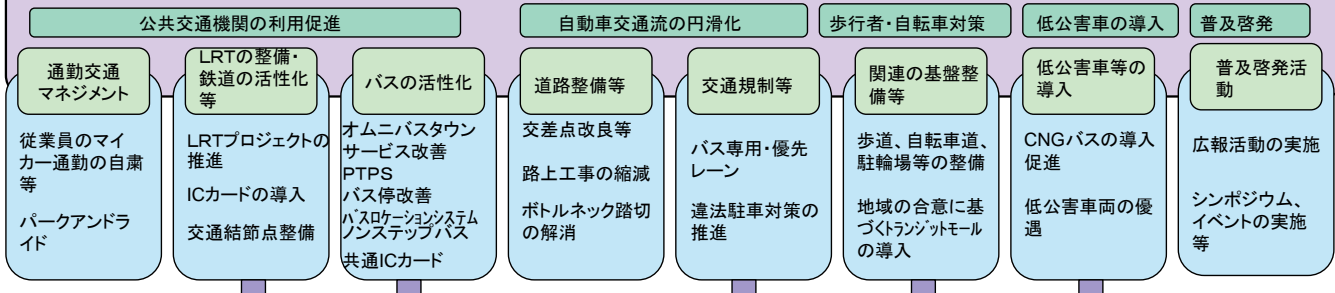


環境的に持続可能な交通（EST）モデル事業 （別添1）

- ◇ 環境的に持続可能な交通の実現を目指す先導的な地域を募集し、関係省庁、関係部局の連携により集中的に支援
- ◇ モデル事業には、環境目標の設定・検証、取組効果の持続性の確保を求め、環境の観点から施策の効果を確保
- ◇ 自治体、地元経済界、交通事業者、道路管理者、警察関係者、NPO等、地元の幅広い関係者が参加して事業を推進

モデル事業のメニュー例

環境の改善



LRTプロジェクトの推進



バスロケーションシステム



バス専用・優先レーン



歩道、自転車道の整備



CNGバス等の低公害車の導入

環境改善目標の設定(CO2排出削減量等)

取組主体(事業者等)の継続的・自立的取組の確保

→ 地域における交通環境改善の先導的事例を全国に拡大

（別添2）

ESTモデル事業 地域一覧(地図)

- 平成16年度選定
- 平成17年度選定
- 平成18年度選定

